

2012年9月7日

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

文学部 歴史文化学科 東洋史学専修課程 4年
白土聡志 (Satoshi SHIRATO)

* 研究課題名

1857~1947年のインド貿易・交易で民族資本の果たした役割について

* 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

派遣国：イギリス

派遣都市：ロンドン

派遣機関：大英図書館(the British Library)

コンタクトした研究者：Tirthankar Roy 博士(London School of Economics)

(2) 派遣期間

出発日：8月6日

帰国日：8月27日

総日数：22日

* 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要：

19世紀後半から20世紀前半にかけてのインドの品目、地域別の貿易額・重量の構成について、また各業界における企業の業績や業種構成について統計史料を元に分析を行う。インドの交易はヨーロッパ諸国の到来により大きく変化し、遠隔地交易のみならずアジア間の交易も変質したが、その変質における民族資本、商人の役割を分析により明らかにしたい。

(2) 実際に達成された成果：

今回、研究を進めるにあたり、大英図書館のアジア・アフリカコレクション(Asian & African Studies)に所蔵されているインド庁記録 (India Office Records) の史料を主に閲覧した。

史料のうち、特に民族資本関係の史料に関しては閲覧を予定していた史料が思っていた内容と異なるなど、予定通りの進行は行うことができなかった。だが、貿易関係の統計史料について、実際に手にとって19世紀後半から20世紀前半におけるインド交易を様々な角度から定量的に確認することができた。また、それらの史料のシェルフマークや内容をリスト化し、今後活かせるようにまとめることができた。

その他の成果としては語学面での進歩と先行研究者との意見交換が挙げられる。史料読

解に際し、英語による読解の速度向上が見られたことは今後の研究に資すると思われる。また、London School of Economics の Tirthankar Roy 博士にお会いし、研究テーマについてご意見をいただけたことは大きな収穫であった。

(3) 今後の研究展望：

今回の派遣では、図書館や文書館に直接訪れて史料に触れる貴重な経験ができたが、期間の問題もあり十分な調査ができたとは言えない。今後は、今回の研究成果をもとに19世紀後半から20世紀前半におけるインドの交易について洞察を深めていき、卒業論文に活かすことを目指していきたい。具体的には、交易の中でも産業を絞ってより多くの史料にあたっていくことを考えている。最後に、今回貴重な機会をくださった次世代人文社会学育成プログラムのみなさまに御礼を申し上げたく、謝辞に代えさせていただきます。